日本共産党あきる野市委員会発行

あきる野民報

発行責任者/松平重幸　TEL＆FAX 558-0718

住民の利益をまもり、
「住民こそ主人公」の
あきる野市政実現をめざして！

2009.10.4　No.518　（毎月２回発行）

さぁ～、来年夏の参院選飛躍のために！

個性ある活動が生み出した貴重な経験…

あきる野市議選、都議選、自公政治に壊滅的打撃を与えて新政権を誕生させた総選挙と、日本共産党のあきる野の党と後援会は三つの選挙を戦ってきました。

市内に十ある党支部と四つの後援会は、〇七年秋から市議選と総選挙を連動させながら選挙活動を進めてきました。「生活が苦しい。介護保険料・国保税を下げて」「保育園・学童クラブの待機児をなくして」「るのバスをもっと増やして」……など音だし宣伝・署名活動・訪問・集会など市民と話し合ってきました。その間、一年十ケ月、支部・後援会ではそれぞれの個性・特徴を生かしながら活動を進め、大きな評価を生みだしたと同時に、一〇年夏の参院選への貴重な経験を作りだしてきました。

今回は三つの選挙を通し「初めて電話で共産党の支持を訴えた」後援会員の参加などもあって、飛躍的に対話支持拡大を伸ばした二宮後援会の活動を紹介します。

二宮後援会

みんなで電話でセンターで楽しく選挙対話

間近に聞いた市民の切実な声

多くの後援会員の参加で始まった電話での対話。「自公政治には愛想が尽きた。政治を変えたい、でも消費税の税率引上げは困る」三つの選挙運動の中で、こうした市民の声を参加したみんなが間近かに聞きました。

小選挙区の功罪の功の部分であろう、「愛想が尽きた、政権を変える」ということに多くの国民が参加しました。

そうした中でも共産党を深く信頼している方々の多くは、政権が変っても共産党がいなくてはと、いつにも増して応援して下さったのが今回の結果でした。

草の根の運動があってこそ

ここ数日、新聞の一面は「八ツ場ダム中止・自立支援法廃止・母子加算復活」の文字が躍動しています。

どれも草の根の市民運動が盛りあげてきたものばかりで、政治を動かすのはやはり国民の運動なのだと意を強くしています。

しかし、あれもこれも実現させたのだから財源として消費税を上げたいというのは困ると多くの市民も話しておられました。

今こそ共産党の出番です

財源は大企業への椀飯振舞（おおばん）の優遇税制を改め、米軍への思いやり予算をやめ、防衛費のムダをスッキリ削る。

これを実現させなければなりません。選挙で応援して下さった皆さん、民主党に投票された皆さん、今こそ手を繋ぎましょう。

おばらしき こどもぐらし

たばた　あずみ

我流おしゃれにうるさいちび4歳。パンツ一枚はくのにも、妥協しません。お風呂上りにパンツ選び。「きょうは、これ。くるまがかっこいいから」くまちゃんがドライブしているプリント付き。「これ、どっちがまえ？」バックプリントですね。「もようがうしろ？」そういうことになります。「でも、はんたいにはこう。だってせっかくのもようがみえなくなっちゃうでしょ」上からズボンはいたらなんにも見えないよ…「きゃー、おしりがきゅうきゅうする－。でもこれでいいー」

一晩おしりをきゅうきゅうさせて、朝のお着替えには「やっぱりこっちむきにすることにした」とはき直し。納得していただけてよかったです。　（09.10.4）

連絡先は☎550-6674

野良望

▼50年前に卒業した高校の東京在住者の同窓会に出席した。20年前に一度だけ参加した、みんな大企業や中小企業のトップで生臭い話ばかりで共産党の話は見向きもされなかった。それでも「赤旗」だけは奨めて帰ってきた。▼毎年連絡してくる幹事が「今度は来てくれ、お前を連れてこいというのがいる、共産党の話を聞かせろ」と。▼受付で会費を払っていると、電話の幹事が「おっ来たかッ」と、いきなりハイタッチ。参加は30人。マイクで老老介護の苦労話を報告したのが寄ってきて「今回考えたがお前のところに二票入れたぞ」と。すかさず、辺りから「お前に言われて20年、『赤旗』とってるぞッ」と声が飛んだ。三人も。▼話せと言うので「学校では落ちこぼれで授業さぼって図書室の裏でタバコを吸って、『蟹工船』を読んでいた」に拍手が湧いた。「民主党のいいところを支えて政治を前に」と話すと「そう、その位置取りがいい」と声。保守大国山口県の高校の同窓会で……。（紀）

9月の横田基地座り込み行動

9月20日、米軍横田基地の撤去を求める座り込み行動に市議団を代表して参加しました。会場は福生市フレンドシップパークで参加者は40人ほどで国道16号線に接する公園です。この座り込み行動は4月から毎月第三日曜日に行われています。

参加者は月々増えています。今回は大型連休のため国道には車が渋滞するたくさんのドライバー達から「頑張れー」の声援がたくさん寄せられていました。新しい政権になったせいか、道行く人達からも激励の声が多くありました。こうした草の根の市民的活動が政府を動かすのではないかと思いました。　（戸沢・あきる野市議会議員）

生存権裁判を支える会が総会と講演会を開催

9月26日に青梅福祉センターで行われました。

唐鎌教授の記念講演を聞く

総会の後、記念講演の講師となった唐鎌直義専修大学教授は、日本の生活保護の制度と国民の認識が、ヨーロッパなどに比べて如何に遅れているかを、具体的な例を上げ紹介し、みんなで力を合わせ改善をと訴えました。

絵手紙／瀬川和子さん・牛沼在住

川柳

政策のパクりの特許料はタダ　西川昇

ポッポッポ飛んだ行方を見守ろう　西川昇

政治は変わると言ったよマルクスが　松籟坊

今のとこ良いぞ頑張れ民主党　松籟坊

五日市後援会が昇仙峡へバスツアー

『昇仙峡と温泉の旅』

■10月15日（木）

五日市駅前＝8:30

大和田宅前＝8;50

■会費＝3,000円

（交通費）

■さて温泉はどこ？

お問い合わせは

五味/595-0079

大和田/595-0120

切り立つ巨岩

トテ馬車

俳句

〈季語＝「爽やか」〉さっぱりとして気持よい事、気分が晴々としている意味から秋の季語として使用します。春の「麗らか」と対をなす同意季語と考えられます。

村包む生姜の香り秋祭　（勝代）

かざぐるま秋をまわして南無水子　（かほる）

輝ける敬老の日のフラダンス　（静子）

夫逝きて弾かぬ三味線虫鳴けり　（照代）

花柄の杖つく友や野菊径　（つや）

不意に立ち案山子と紛ふ漢かな　（淑子）

爽やかに坊主あたまの逆立ちし　（るり子）

秋さやか八十路間近き舞扇　（富）

狐狸の絵の踊るあんどん在祭　（秀治）

歴史探訪　第98回　地名考・平沢①

改めて地図を見て平沢の変則的な地形を知りました。北側を平井川が蛇行して流れ草花と接し、西端は市役所北側で瀬戸岡に接しています。東端は多摩川に接し対岸は福生市ですから、東西がおおよそ三キロと長く、南北は広い地域で約五〇〇米、平均二〇〇米と思いますので、地形全体を見ると爬虫類が地を這うような異形をしています。

「新編武蔵風土記稿」では、江戸後期の平沢村について次ぎのように書いています。（木崎詳略）「郡の中程にあり郷の名は失せている。日本橋より行程四八キロ余り。村の東は多摩川が流れ対岸は熊川村である。南は二宮村に接し、西は瀬戸岡・原小宮の二村である。北は平井川を境として対岸が草花村に及んでいる。東西が三キロ強・南北が五五〇米である。土性は野土真土で水田が多く陸田が少ない。総ての土地が平地で民家四七軒が散在している」

公図に見られる小字は二〇ヶ所。平沢一番地から始まる秋多中学校東側一帯は殆ど畑ですが、小字を「康杉」と云います。牛馬を利用した鋤道具を発明した人の名前が、小字として残ったようですが、地名として残るにはこの近辺の畑の土質が、この「カラスキに適したと考えられます。

（続く）

草花・木崎秀治

多摩川（平高橋東）